



調査レポート

障害者のはたらく幸せに関する調査

2021年9月8日
パーソルダイバーズ株式会社 障害者雇用調査・研究室

企業における障害者雇用への取り組みや社会的潮流の影響により、特性や能力の異なる多様な障害者の社会進出や就業機会が増加している。

そのような中、障害者ははたらくことを通じて、どのような時に幸せや充足感を感じているのか？幸せを感じられず、不満や不安を感じるのはどのような時か？安心してはたらき、活躍できるためには何が必要なのか？障害者のはたらく在り方や今後の障害者雇用施策のヒントを探るため、「障害者のはたらく幸せ」についての調査を実施した。

私たちののはたらくを取り巻く環境や価値観が変化しつつある中、本調査が、障害の有無に関わらず、多様な価値観を持った個人が活躍できる社会の実現へのヒントとなることを願う。

目次

■調査概要・調査結果サマリー

■調査結果紹介

■調査結果詳細

1. はたらく幸せを感じるときについて

A) はたらく幸せを感じるとき(1～9位)

B) はたらく幸せを感じるとき 障害区分別 ※身体障害と精神障害 上位3位

2. はたらく幸せを感じられないときについて

A) はたらく幸せを感じられないとき(1～9位)

B) はたらく幸せを感じられないとき 障害区分別 ※身体障害と精神障害 上位3位

C) はたらく幸せを感じられないとき 転職活動の状況別

3. 考察

調査結果概要・サマリー

調査概要

調査名称	:	障害者のはたらく幸せに関する調査
調査方法	:	自社会員にインターネットによるアンケート回答を依頼
調査対象者	:	dodaチャレンジに登録する、全国の障害のある就業者
調査期間	:	2021年8月10日（火）～8月13日（金）
回答数	:	471名
実施主体	:	パーソルダイバース株式会社（旧パーソルチャレンジ株式会社）

就業状況	回答数	比率
在職中	427	90.7%
その他	29	6.2%
わからない、 答えられない	15	3.2%

状況	回答数	比率
転職活動中	87	20.4%
転職検討中	172	40.3%
転職の意思なし	152	35.6%
休職中	8	1.9%
離職手続き中	8	1.9%

障害区分	回答数	比率
身体障害	337	68.2%
精神障害	98	19.9%
発達障害	56	11.3%
知的障害	1	0.2%
手帳申請中、 または手帳なし	2	0.4%

※「在職中」の回答者のみ（N=427）

年代	回答数	比率
～20代	48	10.2%
30代	134	28.5%
40代	158	33.5%
50代	130	27.6%
60代～	1	0.2%

勤務中の会社の在籍年数	回答数	比率
1年未満	75	15.9%
1-3年未満	127	27.0%
3-5年未満	91	19.3%
5-10年未満	83	17.6%
10年以上	74	15.7%
わからない、答えられない	21	4.5%

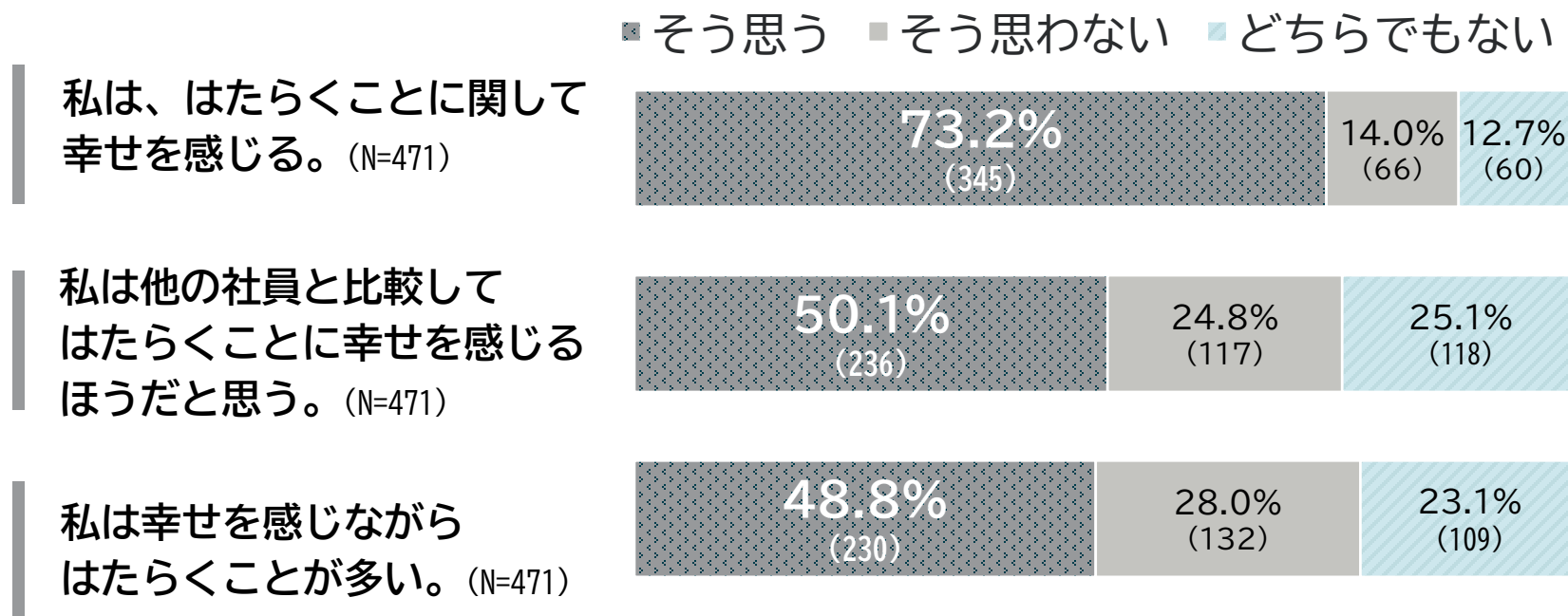
引用について：本調査を引用いただく場合は、出所を明示してください。記載例：パーソルダイバース株式会社「障害者のはたらく幸せに関する調査」

- 73.2%の障害者が、はたらくことを通じて幸せを実感している。
- はたらくことを通じて幸せを実感するのは「新たな学びや成長」（58.2%）、「体力的・精神的な安定」（55.0%）、「仕事への前向きな意味や、自分の役割を能動的に担えている」（46.1%）ときである。
- はたらくことを通じて幸せを実感できない、不満や不安を感じるのは「体力的・精神的に不安定な状態」（52.9%）、「周囲の関心や評価・評判が得られない」（43.5%）、「仕事や、自分の役割への意義が見いだせない」（40.1%）ときである。
- 現在転職活動中の障害者では、幸せを感じられないときの回答として「周囲の関心や評価・評判が得られない」（54.0%）が最多で、「体力的・精神的に不安定な状態」が2番目に高く（51.7%）、「障害や特性に対する周囲の理解が得られない」（49.4%）が続いた。

調査結果紹介

障害者がはたらくことを通じて感じる「幸せ」に関しては、73.2%が「はたらくことを通じて幸せを感じる」と回答し、約半数の48.8%は「幸せな気持ちを感じながらはたらくことが多い」とも回答している。障害者の就業では、障害特性によってはたらく機会やはたらし方に制約や工夫をする必要がある場合が発生することがあるが、はたらくことを通じて幸せや充足感を感じている様子が伺える。

■ はたらく幸せについて



※各設問単一選択式。小数点第2位以下は切り捨て。

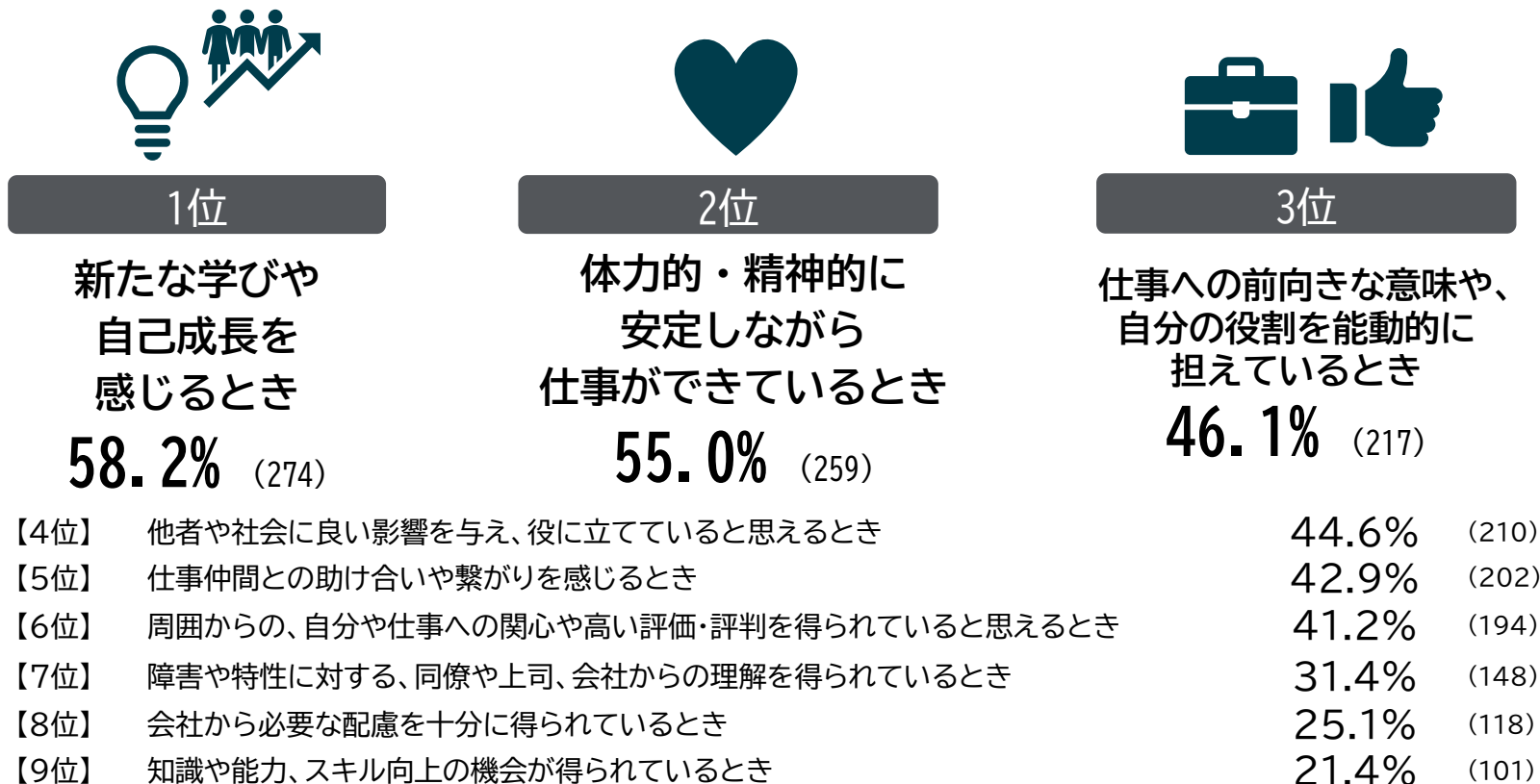
※「そう思う」は、「とてもそう思う」「そう思う」「どちらかと言うとそう思う」の合計。

※「そう思わない」は「どちらかと言うとそう思わない」「そう思わない」「全くそう思わない」の合計。

調査結果詳細 | はたらく幸せを感じるタイミングについて

はたらく上で、どのようなときに幸せを実感するかについて聞いた設問（複数選択、最大5つまで回答）では、「新たな学びや成長を感じる時」（58.2%）が最も多く、次いで「体力的・精神的に安定しながら仕事ができているとき」（55.0%）、「仕事への前向きな意味や、自分の役割を能動的に担えているとき」（46.1%）となり、「障害特性に対して周囲から理解を得られているとき」（31.4%）、「障害特性に対して必要な配慮を得られているとき」（25.1%）を上回る結果となった。

■ はたらく上で幸せを感じる時



※N=471

※複数選択式 最大5つまで。小数点第2位以下は切り捨て。

調査結果詳細 | はたらく幸せを感じるタイミングについて※障害区分別

はたらく幸せを感じるタイミングについて障害区分別にみると、「新たな学びや自己成長を感じるタイミング」、「体力的・精神的に安定しながら仕事ができているとき」、「仕事への前向きな意味や、自分の役割を能動的に担えているとき」に加えて、身体障害者は「他者や社会に良い影響を与え、役に立てていると思えるとき」が高く（45.7%）、精神障害者では「周囲からの（自分や仕事への）関心や、高い評価・評判」が高く（46.9%）、また発達障害者では「新たな学びや自己成長を感じられるとき」がより高い（69.6%）結果となった。

■ はたらく上で幸せを実感するとき 障害区分別 ※身体障害と精神障害上位3位※

身体障害 (N=337)

1位

新たな学びや自己成長を感じるとき
57.0% (192)

2位

体力的・精神的に安定しながら仕事ができているとき
52.8% (178)

3位

他者や社会に良い影響を与え、役に立てていると思えるとき
45.7% (154)

精神障害 (N=98)

1位

新たな学びや自己成長を感じるとき
58.2% (57)

2位

体力的・精神的に安定しながら仕事ができているとき
57.1% (56)

3位

周囲からの、自分や仕事への関心や高い評価・評判を得られていると思えるとき
46.9% (46)

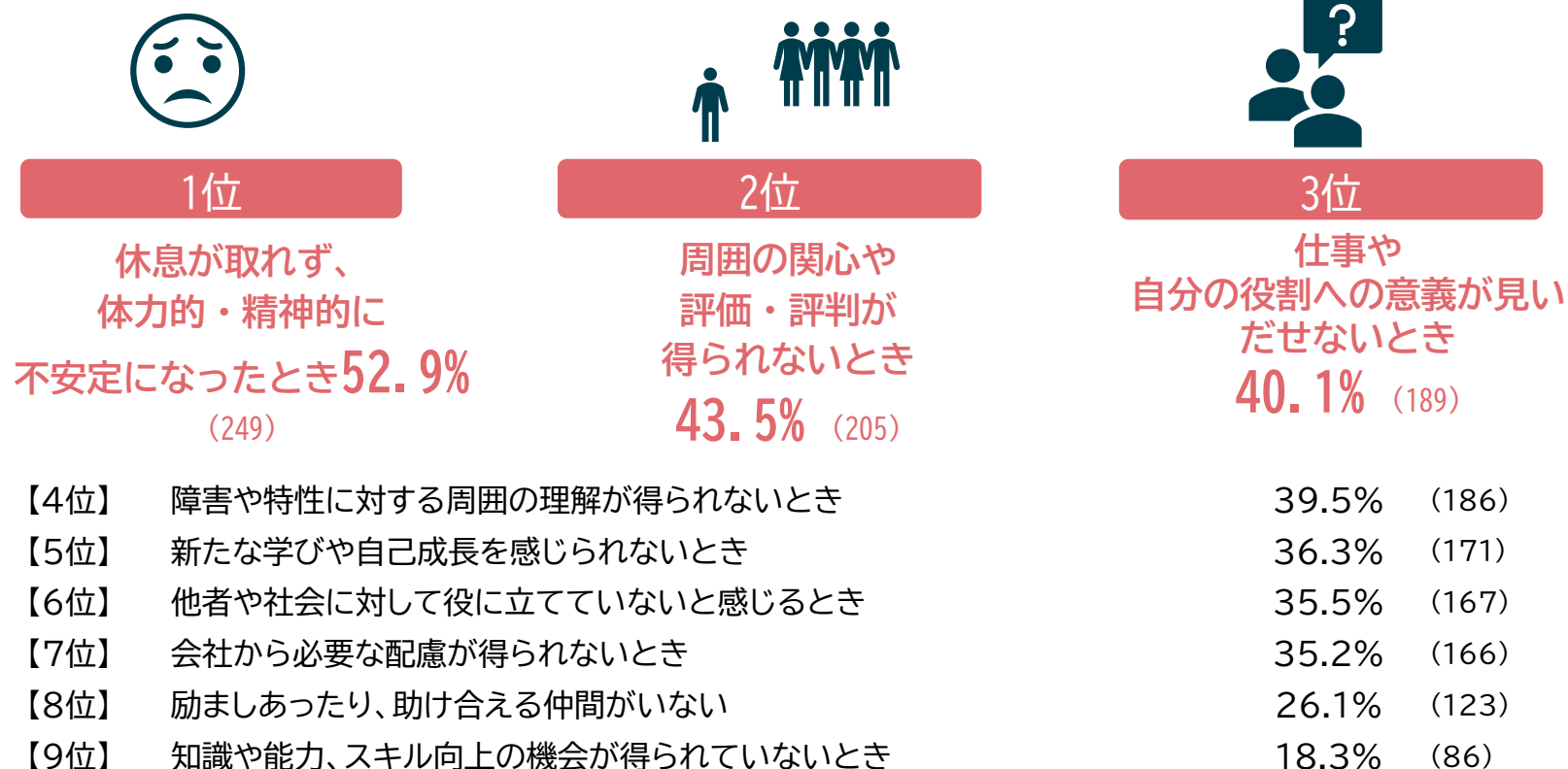
※N=471

※複数選択式 最大5つまで。小数点第2位以下は切り捨て。

調査結果詳細 | はたらく幸せを感じられないときについて

はたらく中で幸せを感じられないときや、不安や不満を感じるときについて聞いたところ、「休息が取れず、体力的・精神的に不安定になったとき」(52.9%)、「周囲からの(自分や仕事への)関心や、評価・評判が得られないとき」(43.5%)、「仕事や役割への意義が見いだせないとき」(40.1%)という結果だった。幸せを感じる要因と、幸せを感じられない要因が異なることが分かる。

■ はたらく幸せを感じられないとき



※N=471

※複数選択式 最大5つまで。小数点第2位以下は切り捨て。

調査結果詳細 | はたらく幸せを感じられないときについて※障害区分別

はたらく幸せを感じられないときについて障害別にみると、精神障害者は「障害や特性に対する周囲の理解が得られないとき」(51.0%)、「会社から必要な配慮が得られないとき」(50.0%)が高くなっている。また、発達障害者は「新たな学びや自己成長を感じられないとき」(55.4%)と比較的高くなっている。精神・発達障害者の就業定着・活躍のためには、職場での障害特性や共にはたらくことに対する理解が必要であると考えられる。

■ はたらく幸せを感じられないとき 障害区分別 ※身体障害と精神障害 上位3位※

身体障害 (N=337)

1位

休息が取れず、体力的・精神的に
不安定になったとき **47.8%** (161)

2位

周囲の関心や評価・評判が
得られないとき **41.2%** (139)

3位

仕事や、自分の役割への意義が
見いだせないとき **40.1%** (135)

精神障害 (N=98)

1位

休息が取れず、体力的・精神的に
不安定になったとき **67.3%** (66)

2位

障害や特性に対する周囲の理解が
得られないとき **51.0%** (50)

3位

会社から必要な配慮が
得られないとき **50.0%** (49)

※N=471

※複数選択式 最大5つまで。小数点第2位以下は切り捨て。

現在転職活動中の障害者では、幸せを感じられないときの回答として「周囲からの（自分や仕事への）関心や、高い評価・評判が得られない」（54.0%）が最多で、「体力的・精神的な不安定さ」が2番目に高く（51.7%）、「障害や特性に対する周囲の理解が得られない」（49.4%）が続く。

■ はたらく幸せを感じられないとき 障害区分別 ※転職活動の状況別 上位3位※

転職活動中 (N=87)

1位

周囲の関心や評価・評判が
得られないとき **54.0%** (47)

2位

休息が取れず、体力的・精神的に
不安定になったとき **51.7%** (45)

3位

障害や特性に対する周囲の理解が
得られないとき **49.4%** (43)

転職を検討中 (N=172)

1位

休息が取れず、体力的・精神的に
不安定になったとき **54.1%** (93)

2位

仕事や自分の役割への意義が
見いだせないとき **47.7%** (82)

3位

周囲の関心や評価・評判が
得られないとき **46.5%** (80)

※N=471

※複数選択式 最大5つまで。小数点第2位以下は切り捨て。

障害者のはたらく幸せの実感には特性理解や配慮に加え、成長実感や適正な評価が重要である

今回の調査では、障害者が幸せを実感するのは体力的・精神的な安定に加え、新たな学びや成長を実感でき、仕事への前向きさや自分の役割を能動的に捉えて就業できる環境であること、かつ、周囲の関心や評価・評判が得られないことや、必要な配慮が得られないなどの要因が少ない環境であることが分かった。障害者のはたらし方は、特に一人ひとり異なる。私たちは、障害の特性や必要な配慮への理解に加え、成長実感や安心感を得られているか、適正な評価を受け、誇りを持ってはたらけているかについて関心を持ち、安心してはたらける職場環境づくりに取り組む必要がある。その中にこそ、障害の有無に関わらず、多様な価値観を持った個人が活躍できる社会実現へのヒントがあるはずだ。互いに理解を示し、それぞれの立場でできる配慮を考え創意工夫していける喜びこそ、私たち一人ひとりはたらくことを通じて得られる幸せではないか。

雇用増加する精神・発達障害者の就業定着・活躍のためには障害者雇用に対する社内理解促進が第一歩である

厚生労働省が発表した「令和2年 障害者雇用状況の集計結果」によると、発達障害を含む精神障害者の雇用数が前年と比べ12.7%増加しており、今後は障害者労働市場の中心となると見られる。当社がこれまでご支援してきた経験を振り返ると、長期就業中の精神障害者の周囲には、障害者本人と従事する仕事そのものに前向きな関心を示し、業務に対する要望や意見など分け隔てなく接するキーパーソンが必ず存在し、障害者雇用に対する社内理解促進の動線になっていた。企業が、「はたらく」ことと再び向き合う精神障害者を支えるために必要な第一歩なのではないか。

本件に関するお問い合わせ

調査・研究データの転載のご希望や、調査内容についてのお問い合わせは下記からお願いします。

pdi_research@persol.co.jp
(パーソルダイバース障害者雇用調査・研究室)